

# 令和六年度 中学生の「税についての作文」

沖縄県納税貯蓄組合連合会会長賞 「ふるさと納税」で得た税の新視点

名護市立屋部中学校 国吉 泰希

「返礼品届いたよ。」

とある休日の昼、母は少し嬉しそうに言った。私は「返礼品？」と頭の中で繰り返した。何の返礼品か聞くと、母がふるさと納税の返礼品だと教えてくれた。届いた箱を開けてみると、そこにはたくさんのおさつまいもが入っていた。茨城県の『紅はるか』というおさつまいもらしい。ねっとりして素朴な甘みを感じられ、今まで食べたおさつまいもの中では、群を抜いて美味しかった。私は、このことをきっかけに「ふるさと納税」という制度に興味をもった。しかし、テレビコマーシャル等で、ふるさと納税という言葉を目にしたことはあったが、実際のところ、よく知らなかった。そこで、私はふるさと納税について詳しく調べてみることにした。

まず、ふるさと納税とは、住んでいる場所に関わらず、好きな自治体に寄付できる制度ということを知った。例えば、名護市に住んでいる人も、故郷や応援したい地域に寄付できる。寄付金は、医療や教育など、その地域の住民サービスに使われる。このような制度は、人口減少などで、税収が減っている地域を支援することが目的であることを知った。さらに、この制度を利用することで、特産品などの返礼品がもらえることもわかり、自治体だけでなく納税者も得する制度だと感じた。これまでは、税に対して『買い物したときに多めに払っていて損した気分』と、あまり良い印象では無かったが、これをきっかけにい

ろいろと調べてみようと思った。

最初に調べたのは、税金がどのように使われているのかということだ。税金は、私たちの生活を支えるために様々なことに使われていることがわかった。例えば、道路の整備や、私たちが通っている学校の整備、私たちの使う教科書など、身の回りの多くのものが税金によって賄われている。他にも、自然災害からの復旧や町中にある公園の整備、科学研究や文化芸術の振興まで、私たちの生活のあらゆる場面を支えていることを知った。これまでに、税金は「ただ何となく、お金を払うだけのものだ」と感じていたが、これほど多くのことに使われているとは、正直驚きだった。

次に、税金の仕組みについて調べてみた。税金には、消費税や所得税など、様々な種類がある。消費税は、私たちが商品やサービスを購入する際に支払う税金だ。私がコンビニやスーパーで買い物をするときにも消費税を支払っている。これらの税金も、私たちの生活を支えている。

ここまで「税」について調べる中で、税金は単に国や地方自治体に納めるお金ではなく、私たちの社会を支えるための重要なものであるということに気づかされた。ふるさと納税をきっかけに、「税」に対する意識が大きく変わった。今後は、税についてさらに理解を深め、社会を支える一員になれるよう成長していきたい。